

接続表現「ばかりに」の意味分析

趙妍姍

◆要旨

本論では、原因・理由を表す「ばかりに」について三つのことを述べる。

- ①「ばかりに」が表すのは、「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄が生じ、それが本来生じなくてよい（生じなくてもおかしくない）結果が生ずる決定的な理由になった（決定的理由となった事柄以外は何の問題もなかった）」ということである。
- ②「ばかりに」は前件と後件に「想定や期待から外れており必然性がない」という意味を付与する表現である。
- ③「ばかりに」のこのような性質は、「甘い物ばかり食べている」のような限定の「ばかり」が「程度がある範囲を越えている」という意味を表すことと関係する。

◆キーワード

ばかりに、評価の意味、マイナスの結果、決定的理由、想定外

◆ABSTRACT

Bakarini is a conjunctive particle to express cause and reason. 'P-*bakarini* Q' is used when the situation P, which might have been avoided or controlled under counterfactual conditions, in fact became a decisive reason which caused the undesirable situation Q. This situation is in a contrast to 'P-*dakeni* Q', which expresses that Q is a reasonable consequence caused by P. The speaker using *bakarini* regards that both the situations P and Q are outside his/her assumption or expectation. The meaning of "outside the speaker's assumption or expectation" of *bakarini* derives from the meaning of the focus particle *bakari*, such as *okasi-bakari taberu* 'always eat sweets', which implies that the degree of the action goes beyond the speaker's assumption or expectation.

◆KEY WORDS

bakarini, evaluative meaning, negative consequences, decisive reason, outside the speaker's assumption or expectation

Analysis of the Meaning of the Conjunctive Particle *bakarini*

YANSHAN ZHAO

1 はじめに

「ばかり」には、限定（例1）、程度（例2）、比喩（例3）、概数（例4）、アスペクト（例5）を表す用法がある。

- (1) 鈴木さんは甘い物ばかり食べている。（限定）
- (2) 手に関する慣用句は驚くばかりに発達している。（程度）
- (3) 輝くばかりに美しい女性。（比喩）
- (4) 1週間ばかり休暇を取ってハワイに行きたい。（概数）
- (5) あの留学生は先週日本に来たばかりだ。（アスペクト）

（日本語記述文法研究会編2009: 61-71）

また、「ばかり」を用いた複合辞として、様態を表す「んばかりに」（例6）、添加を示す「ばかりか」（例7）、原因・理由を表す「ばかりに」（例8）がある。

- (6) とびかからんばかりに、駆けよって、砂の中に腕をつっこみ、かきまぜる。（様態）
- (7) いつも楽しいそうに見えるばかりか、心事も至って正しいので……。（添加）
- (8) 郊外に家を建てたばかりに、往復三時間二十分もかかる。（原因理由）

（森田・松木1989: 103-104）

本論では、(8) のような原因・理由を表す「ばかりに」の意味について考える。国立国語研究所（1964）、松村編（1971）、森田・松木（1989）では、「ばかりに」の意味について次のように説明されている。

- (9) ただそれだけのことが原因となって（国立国語研究所1964: 103-104）
- (10) それだけが原因（理由）でという意味を表す（事態の悪化を示すような結果の導かれることが多い）。（松村編1971: 680）

- (11) “ただその程度のことの原因となって”の意で好ましくない理由を強調して示す表現である。それだけが原因で良くない結果、あるいはたいしたことのない結果になった場合を取り上げ、それについて話し手が後悔したり残念に思ったりしている気持ちを表している。

(森田・松木1989:103-104)

これらの説明で述べられていることは、次の二点にまとめられる。

- ①「ばかりに」の前件が後件の結果に対して唯一の原因となる。
- ②「ばかりに」の後件はマイナスの結果が述べられ、文全体が後悔や残念という気持ちを伴うことが多い。

この二点については、先行研究でそれぞれ反論がなされている。そのこともふまえながら、第2節では①について、第3節では②について検討する。第4節では、第2節、第3節の議論をふまえて、「ばかりに」の評価的意味の由来について考察する。

2 「ばかりに」の前件の性質

本節では、「ばかりに」の前件が後件の「唯一の原因」かどうかを検討する。森田・松木(1989)は「ばかりに」を「ただその程度のことの原因となって」という意味の表現とする。これに対し、前田(1997)は、「ばかりに」を含む文について(12)のように述べ、「ばかりに」の前件は「唯一の原因」ではなく、「前件さえ起らなければ後件は起こらない」という「最低条件」であるとしている。

- (12) 前件自体がまず実現が期待されておらず、従って、後件も望まれてはいない事態であるが、それにも関わらず、前件・後件共に実現してしまった、という場合にバカリニは用いられているのである。

(前田1997:27)

前田 (1997) によれば、次の (13) は「英語さえ話せれば恥をかかなかったのに」という話者の判断を表す。

(13) 英語が話せないばかりに、恥をかいた。 (前田 1997: 28)

「英語さえ話せれば」は「英語以外は不要」という最低条件を表し、「英語のみが話せて、英語以外が話せなければ」という唯一条件は表さない。よって、「ばかり」を用いた (13) においても、「英語が話せない」ことは「唯一の原因」ではなく「最低条件」であるというのが前田 (1997) の議論である。

本稿では、前田 (1997) の主張を支持する。まず、前田 (1997) が言う「最低条件」について少し具体的に考える。例として、営業部に属する社員が「恥をかかない」条件として、「英語が話せる」、「クロージング能力が高い」、「顧客獲得力が高い」の三つがあるという前提のもとで (14) が発された場合を考える。

(14) 英語さえ話せれば恥をかかなかった。しかし、英語が話せないばかりに恥をかいた。

(14) は二つの解釈が可能である。一つは、三つの条件のうち「英語が話せる」が「最強条件」であり、それがクリアされれば、他の条件がクリアされなくても「恥をかかない」という解釈 (例15)、もう一つは、他の条件はすでにクリアしており、あとは「英語が話せる」が「最終条件」としてクリアされれば「恥をかかない」という解釈 (例16) である。

(15) 英語さえ話せれば、他のことはできなくても、恥はかかなかった。

しかし、英語が話せないばかりに恥をかいた。

(16) 他のことはできるので、あとは英語さえ話せれば恥はかかなかった。

しかし、英語が話せないばかりに恥をかいた。

(15)、(16) で述べられているのは、「英語が話せるか、英語が話せないか」

が「恥をかかないか、恥をかくか」を決める決定的理由になっているということである。前田(1997)が「最低条件」という形で説明していることも、期待通りの結果をもたらす決定的理由を述べる場合は「さえ」を用い、期待とは逆の結果をもたらす決定的理由を述べる場合には「ばかりに」を用いるということである。ここでは、前田(1997)の主張を踏襲しつつ、よりわかりやすい「決定的理由」という用語を用いることにする。

次に、「ばかりに」の前件は後件の「唯一の原因」とは言えないことを見る。前述のように、森田・松木(1989)は「ばかりに」を「ただその程度のことの原因となって」という意味の表現とする。しかし、「ばかりに」は、「唯一の原因」を表す「というだけ(程度)の理由で」とは同義ではなく、取るに足りないことを表す「たかが」と共起するかどうか異なる。

- (17)a. (たかが) 最年長であるというだけ(程度)の理由で代表に選ばれた。
b. (*たかが) 最年長であるばかりに代表に選ばれた。
(18)a. (たかが) 遅刻したというだけ(程度)の理由で解雇された。
b. (*たかが) 遅刻したばかりに解雇された。

「というだけ(程度)の理由で」を用いた(17a)、(18a)は、「理由としては本来不十分なことが理由となった」という意味を表す。この場合、話し手は「最年長という理由で代表に選ばれた」こと、「遅刻したという理由で解雇された」ことを道理に合わない、すなわち「前件が後件の理由になることに必然性はない」と考えている。

一方、「ばかりに」を用いた(17b)、(18b)は、「最年長でさえなければ代表には選ばれなかった」、「遅刻さえしなければ解雇されなかった」ことを表す。話し手は「最年長であることを回避できなかった」こと、「遅刻を回避できなかった」ことを残念に思ったり後悔したりしているが、「最年長という理由で代表に選ばれた」こと、「遅刻したという理由で解雇された」ことを道理に合わないとは思っていない。「ばかりに」を用いた文が表すのは、「ただその程度のことマイナスの結果の理由になった」というよりは、「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄が後件の決定的な理由になった(決定的

理由となった事柄以外は何の問題もなかった」ということである。(17b)、(18b)に感じられる「後悔・残念」の気持ちも、「その場にいなければ(メンバーが違えば)最年長ではなかったかもしれない」、「もっと早く家を出ていれば(電車が遅れなければ)遅刻しなかったかもしれない」という気持ちが含まれる。次の(19)にも、「何か違っていたら、二人は親同士の仲が悪いという境遇にはなかったかもしれない」という気持ちを感じられる。

- (19) 二人は好き合っているのだが、親同士の仲が悪いばかりに、いまだに結婚できないでいる。
(グループ・ジャマシィ 2004:642)

「ばかりに」の前件には「たまたま最年長であるばかりに」、「たまたま遅刻したばかりに」、「たまたま親同士の仲が悪いばかりに」のように、「たまたま」という気持ちを感じられることが多いが、それも前件に対して「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない」という気持ちがあるからである。

3 「ばかりに」の後件の性質

本節では、「ばかりに」の後件が「マイナスの結果」かどうかを検討する。

この点について、中里(1995)は、原因理由の「ばかりに」の用法を次の二つに分類し、後件にマイナスの結果が来るとは限らないとする。

I 他ならぬAが原因で、Bというマイナスの結果になる。

- (20) あなたが大声を出したばかりに、子どもが泣き出してしまった。
(21) 忙しさにかまけて病院に行かなかったばかりに、風邪をこじらせてしまった。
(22) 自分がやりたいばかりにわざとあんなことをいったんだろう。
(23) その子は頭がいいばかりに、他の子からはあまりよく思われていないようだ。

II 他ならぬAが原因で、Bという中立またはプラスの結果になる。

- (24) いい人間だと思わせたいばかりに親切にしているに違いない。

(25) もう少しそばにいてほしいばかりに次から次へと話し続けた。

(26) 早くおわらせたいばかりに猛スピードで作業した。

(以上、中里1995:94-95:例文番号変更)

中里(1995)の言う用法Ⅱでは、願望表現「たい」「ほしい」が用いられているが、前田(1997)、馬(2016)も、「たいばかりに」の場合は、後件はマイナスの結果とは限らないとして、次のような例をあげている。

(27) 彼女に会いたいばかりに、つらい仕事に耐えてお金を貯めた。

(前田1997:31)

(28) 恩師にあいたいばかりに、はるばる海を越えてやってきた。

(馬2016:91)

馬(2016)は、この種の「たいばかりに」の後件には「困難を乗り越える」という意味合いが含まれ、「はるばる」「わざわざ」「あえて」といった副詞が多用されることも指摘している。国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の検索ツール「中納言」を用いて、「たいばかりに」をキーワードとする長単位検索で検索したところ、「たいばかりに」の総用例数は18例であった。そのうち、後件が中立またはプラスの結果で、「わざわざ」が使用されている例は2例、「はるばる」が使用されている例が1例あった。

(29) 後小松上皇は大の祇園会好きで、山鉦・笠などの風流物を見たいばかりに、町衆に命じて祭礼の行列をわざわざ内裏・仙洞御所に立ち寄せ、上皇自身は築山に登り、お気に入りの召次幸正に笠を差させてそれを見物するのが何よりの楽しみだった。(櫻井英治(『室町人の精神』)

(30) ただね、杉並区内でもこの善福寺の一画だけ、杉並浄水場で処理する水が流れてるんですが、これが飛び切りおいしいんです。お客さんのなかには、(ひとえに)この水が飲みたいばかりにわざわざうちで給油なさる人がいるんですよ。(鮎川哲也(『マーキュリーの靴』)

(31) シャムセディンとても、もとより申し分なかったのですが、ヌーレデ

インに至っては全世界に並ぶ者がいないほどでした。まことに見事な男ぶりでありましたので、その美しさはあらゆる国々に聞こえ渡り、たくさんの旅行者たちが、ただ彼の欠けるところのない美しさとその顔貌を見たいばかりに、遠い国々から、はるばるエジプトにやって来るありさまでありました。(佐藤正彰『美食』)

このように、先行研究では、「ばかりに」の後件は「マイナスの結果」とは限らないとされるが、本稿では、「ばかりに」の後件は「マイナスの結果」であるとする。確かに、(24)～(31)の後件は、それ自体では中立またはプラスの事態と言える。しかし、文全体の意味を考えると、いずれの例の場合も「無理をしている」というマイナスの評価が感じられる。

まず、(24)では、「親切にする」ことが「望ましくない形で親切にしている」というマイナスの結果として述べられている。「親切にする」のは他人のためであり、自分のために「親切にする」ことは本来の姿に反する。(24)では、「自分のことをいい人間だと思わせたい」という願望さえなければ、本来の姿に反する形で「親切にする」必要はないが、願望が抑えられず、本来の姿に反することをしている、ということが述べられている。

同じように、(25)、(26)、(27)、(29)の「次から次へと話し続ける」、「猛スピードで作業する」、「つらい仕事に耐えてお金を貯める」、「祭礼の行列を内裏・仙洞御所に立ち寄らせる」ことは、それ自体はマイナスではないが、文全体としては、これらのことが「通常はしなくてもよい、負担の大きいこと」というマイナスの結果として述べられている。「次から次へと話し続ける(猛スピードで作業する、つらい仕事に耐えてお金を貯める、祭礼の行列を内裏・仙洞御所に立ち寄らせる)」ことは、負担が大きく、しなくてもよいのであればそのほうがよい。(25)、(26)、(27)、(29)で述べられているのも、「もう少しそばにいてほしい(早く終わらせたい、彼女に会いたい、山鉾・笠などの風流物を見たい)」という願望さえなければ、そのような無理をする必要はないが、願望が抑えられず、通常ならしなくてもよいことをした、ということである。

「わざわざ」「はるばる」を用いた(28)、(30)、(31)も、「海を越えてやってくる(うちで給油する、遠い国々からエジプトにやってくる)」こと自体はマイナス

ではないが、文全体としては、これらが「別の方法があればそのほうがよい、負担の大きいこと」というマイナスの結果として述べられている。すなわち、「海を越えてやってくる（うちで給油する、遠い国々からエジプトにやってくる）」ことは、負担が大きく、より負担が小さい別の方法があるのであればそのほうがよい。(28)、(30)、(31)で述べられているのは、「恩師に会いたい（この水が飲みたい、彼の欠けるところのない美しさとその顔貌を見たい）」という願望さえなければ、そのような無理をする必要はないが、願望が抑えられず、負担の大きい方法をとった、ということである。馬(2016)が指摘する「困難を乗り越える」という意味も、「無理をする」という形で捉えるのが自然だと思われる。

このように、「たいばかりに」の後件は、それ自体は中立またはプラスの事態のこともあるが、「たいばかりに」を含む文全体は、「条件が違っていたら（物事の道理や負担の大きさを十分理解していたら）生じていなかったかもしれない願望が生じてしまい、それが無理をする決定的な理由になった（その願望以外は何の問題もなかった）」ことを表す。「たいばかりに」を含め、「ばかりに」の後件はマイナスの結果であると言える。

4 「ばかりに」の評価的意味の由来

第2節、第3節では、「ばかりに」と「たいばかりに」を用いた文が次のような意味を表すことを見た。

- (32) 条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄が生じてしまい、それがマイナスの結果の決定的な理由になった（決定的理由となった事柄以外は何の問題もなかった）。
- (33)（「たいばかりに」の場合）
条件が違っていたら（物事の道理や負担の大きさを十分理解していたら）生じていなかったかもしれない願望が生じてしまい、それが無理をする決定的な理由になった（その願望以外は何の問題もなかった）。

「ばかりに」の前件は「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない

のに、現実には生じてしまった事柄」である。また、「ばかりに」の後件が「マイナスの結果」というのも、単に「望ましくないこと」というよりは、「本来生じなくてもよいのに生じた事柄」ということだと思われる。実際、後件がマイナスの結果を表す例では、後件が「本来生じなくてよいのに生じた事柄」として述べられている。

- (34) 郊外に家を建てたばかりに、往復三時間二十分もかかる。 (= (8))
- (35) 英語が話せないばかりに、恥をかいた。 (= (13))
- (36) 最年長であるばかりに代表に選ばれた。 (= (17b))
- (37) 遅刻したばかりに解雇された。 (= (18b))
- (38) あなたが大声を出したばかりに、子どもが泣き出してしまった。 (= (20))
- (39) 忙しさにかまけて病院に行かなかったばかりに、風邪をこじらせてしまった。 (= (21))
- (40) 自分がやりたいばかりにわざとあんなことをいったんだろう。 (= (22))
- (41) その子は頭がいいばかりに、他の子からはあまりよく思われていないようだ。 (= (23))

先行研究で「たいばかりに」の後件が中立またはプラスの事態とされる場合も、後件は「無理をする」ということであり、これも「本来生じなくてもおかしくないのに生じた事柄」と言える。

「ばかりに」を含む文の意味は、次のようにまとめることができる。

- (42) 条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄が現実生じ、本来生じなくてよい（生じなくてもおかしくない）結果が生ずる決定的な理由になった（決定的理由となった事柄以外は何の問題もなかった）。

「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄」、「本来生じなくてよい（生じなくてもおかしくない）結果」は、ともに「想定や期待から外れており必然性がない事柄」と言うことができる。「ばかりに」は前件と後件に「想定や期待から外れており必然性がない」という評価の意味を加える表現だと言

えよう。

「ばかりに」のこのような意味特徴は、原因・理由を表す「だけに／だけあって」と対称的である。

- (43) 今春の選抜大会で甲子園での開会式を経験しているだけあって（だけに）、選手たちは余裕のある表情で、息のあった行進を見せた。

（朝日・2007年8月9日）（三浦2009:111、「だけに」を追加）

「だけに」について、中島（1995）、森田（2007）は次のように述べている。中里（1995）は、「だけに」の用法を三つに分けているが、いずれも次の一般化の範囲に収まるものである。

- (44) 「AダケニB」という文において、話し手は、Aという事態からもっともであると感じられるような事態Bが存在することを、自身の判断をもとに示す。 （中島1995:530、下線筆者）

- (45) 「だけに」は、それに先行する部分（前件）が事実の事柄で、その事実から当然生ずべき結果を後件で説明する。 （森田2007:209、下線筆者）

これらの研究で述べられているように、「だけに／だけあって」を用いる話し手は、前件と後件との間に必然的な関係を認めている。(43)でも、「今春の選抜大会で甲子園の開会式を経験している」と「選手たちは余裕のある表情で、息のあった行進を見せた」ことが、必然的な関係にあるものとして述べられている。

また、「だけに／だけあって」には「さすがに」という気持ちが含まれるが、これは話し手が前件の事態を話題の対象にふさわしいものとして評価しているということである。(43)では、「今春の選抜大会で甲子園での開会式を経験している」ことが「選手たち」の実力に対応の事態として評価されている。

「だけに／だけあって」の「だけ」は、「合格するだけの準備を怠りなく」のような「事柄に対応する程度」を表す「だけ」と似ている。「だけに／だけあって」は、「話題の対象にふさわしい事態が理由となって、それに見合った結

果が生じた」というように、前件と後件に「必然的で相応である」という評価的意味を加える表現だと考えることができる。

「だけに／だけあって」が「必然的で相応である」、「ばかりに」が「想定や期待から外れており必然性がない」という評価的意味を持つことは、両者の限定のあり方と関係する。

菊地（1983）は、(46) のような「だけ」は「考えられるモノ・コト・量・質のうちで、その範囲のモノ・コト・量・質に確定される」こと、「正確にそれと限る」ことを表すのに対し、(47) のような「ばかり」は「物事が数多くみとめられ、話し手の関心がそれに絞られる」こと、「そういう物事が多いと感じてそれに注目する」ことを表すと述べている。

(46) この一週間そばだけ食べたよ。 (菊地1983:59)

(47) この一週間そばばかり食べたよ。 (菊地1983:59)

「だけ」は、菊地（1983）が述べるように「事態が一定の範囲にちょうど収まる」ことを表す。「合格するだけの準備を怠りなく」のような「事柄に相応する程度」を表す用法があることや、「だけに／だけあって」が前件と後件に「必然的で相応である」という評価的意味を加えることも、「だけ」の「ちょうど収まる」という意味特徴と関係すると考えられる。中里（1995:95）も、「「だけに」は「だけ」の〈限定〉の意味を表すのではなく、その程度にに応じているという〈程度〉の意味を表す」と述べている。

これに対し、「ばかり」は「程度がある範囲を越えている」ことを表す。菊地（1983）が言う「そういう物事が多いと感じてそれに注目する」という意味も、程度がある範囲を越えているから「多い」と感じるということであろう。前述のように、「ばかりに」は前件と後件に「想定や期待から外れており必然性がない」という評価的意味を加える表現であるが、このことも「ばかり」が「程度がある範囲を越えている」ことを表すことと密接な関係があると考えられる。

馬（2016）は、「ばかりに」の意味特徴を「ばかり」の「成立するのは当該事態で尽くされる」という意味特徴（丹羽1992の言う「内限定」）と結びつけ、次の

ように説明している。

- (48) 丹羽 (1992) では、現代語のとりたてについて、「だけ」は他の事態を排除するという「外限定」に重点があり、「ばかり」は「成立するのは当該事態で尽くされる」という「内限定」に重点があるとされている。「内限定」のあり方の一つとして、前件を実現したい気持ちが主体の心に尽くされ充満することがある。この場合、後件では苦労を惜しまず困難を乗り越え力を尽くすという事態が現れることになる。反面、前件をどうしても実現したい気持ちが強すぎると、後件では逆に事態が望ましくない方向へ転じてしまうこともありうる。(略) このニュアンスが定着した結果、現代語「ばかりに」(一部「たい+ばかりに」を除く)はマイナス性の因果関係にしか用いられなくなったと考えられる。

(馬2016: (104)-(105))

「前件をどうしても実現したい気持ちが強すぎると、後件では逆に事態が望ましくない方向へ転じてしまう」という説明は、「ばかりに」は前件と後件に「想定や期待から外れており必然性がない」という評価の意味を加える表現であるとする本稿の説明と通ずるところがある。

5 まとめ

本稿では、「ばかりに」の前件・後件の性質に焦点をあて、「ばかりに」を用いる文が表す話し手の気持ちについて考察を行った。まとめると次のようになる。

- ① 「ばかりに」が表すのは、「条件が違っていたら生じていなかったかもしれない事柄が生じ、それが本来生じなくてよい(生じなくてもおかしくない)結果が生ずる決定的な理由になった(決定的理由となった事柄以外は何の問題もなかった)」ということである。
- ② 「ばかりに」は前件と後件に「想定や期待から外れており必然性がない」

という意味を付与する表現である。

- ③「ばかりに」のこのような性質は、「甘い物ばかり食べている」のような限定の「ばかり」が「程度がある範囲を越えている」という意味を表すことと関係する。
〈麗澤大学大学院生〉

付記

本稿は、日本語学会2019年度春季大会（2019年5月18日、甲南大学）における口頭発表の内容に加筆修正を加えたものです。発表の際に貴重なご意見をくださった方々、ならびに査読の先生方に心より御礼申し上げます。

参考文献

- 菊地康人（1983）「バカリ・ダケ」国広哲弥（編）『意味分析』pp.57-59. 東京大学文学部言語学研究室
- グループ・ジャマシィ（編）（2004）『日本語文型辞典 中文版』くろしお出版
- 国立国語研究所（1964）『現代語の助詞・助動詞（四版）』秀英出版（初版1951）
- 中里理子（1995）「「だけに」「ばかりに」の接続助詞的用法について」『言語文化と日本語教育』9,pp.87-98. お茶の水女子大学日本語文化学研究会
- 中島孝幸（1995）「ダケニとダケアッテ—通念依存の形式」宮島達夫・仁田義雄（編）『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』pp.521-530. くろしお出版
- 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法5 第9部とりたて 第10部 主題』くろしお出版
- 丹羽哲也（1992）「副助詞における程度と取り立て」『人文研究』44,pp.1115-1150. 大阪市大文学部
- 前田直子（1997）「原因・理由を表す「ばかりに」と「からこそ」」『東京大学留学生センター紀要』7,pp.25-41. 東京大学留学生センター
- 馬紹華（2016）「「ばかりに」の原因用法の成立について」『日本語学論集』12,pp.89(318)-107(300). 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室
- 松村明（編）（1971）『日本文法大辞典』明治書院
- 三浦佑子（2009）「評価を表す接続助詞—「だけあって」と「ばかりに」」『言語科学論集』13,pp.111-121. 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻
- 森田良行（2007）『助詞・助動詞の辞典』東京堂出版
- 森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型』アルク